

一定の投資性金融商品の販売に係る

**重要情報シート（個別商品編）**
投資信託
～質問例に対する回答例を記載しています～

## 1. 商品の内容

質問例	回答例
<ul style="list-style-type: none"> <li>あなたの会社が提供する商品のうち、この商品が、私の知識、経験、財産状況、ライフプラン、投資目的に照らして、ふさわしいという根拠は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社では、お客さまの知識、経験、資産、収入等を踏まえたコンサルティングの結果、各商品の特徴や運用状況、リターン・リスクの水準を鑑み、お客さまのお考えや目的、ご資金の性格、将来の資産設計などに照らして、ふさわしいと判断した商品をご提案しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>この商品を購入した場合、どのようなフォローアップを受けることができるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資信託をお持ちいただくお客さまには、定期的に以下の書面による運用状況をご報告いたします。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>【運用報告書】</b>：商品の運用実績や資産状況、今後の運用方針などをお伝えする定期報告書で、運用会社が作成しています。</li> <li><b>【取引残高報告書】</b>：保有商品の残高・数量・運用損益、取引履歴などをお伝えする定期報告書で、当社が作成しています。</li> </ul> </li> <li>運用会社が毎月作成し運用状況をお伝えする<b>【月次レポート】</b>は当社ホームページ「ファンド情報」個別商品ページに掲載しています。</li> <li>購入後は上記書面に加え、市場動向や投資環境の変化などに応じた情報提供など継続的なフォローアップに努めています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>この商品が複数の商品を組み合わせたものである場合、個々の商品購入と比べて、どのようなメリット・デメリットがあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資信託は、複数の金融商品（株式・債券・REIT・投資信託等）を組み合わせた商品です。</li> <li>株式等を個別に購入するのではなく、投資信託として購入するメリット/デメリットは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>【メリット】</b>：少額でも分散投資が容易にでき、運用を専門家に任せるので環境変化による資産の見直しの手間や時間を削減できます。</li> <li><b>【デメリット】</b>：投資信託の購入時手数料や運用管理費用（信託報酬）などのコストがかかるため、株式や債券などを直接購入するよりもコストが高くなる場合があります。</li> </ul> </li> <li>投資信託の種類によっては、株式や債券等に直接投資するのではなく、別の投資信託を通じて間接的に投資する投資信託もあり、「ファミリーファンド方式」や「ファンド・オブ・ファンズ方式」がそれにあたります。別の投資信託を経由して運用することで、より幅広い分散投資が容易になり、リスクを抑える効果や、効率的な運用が可能になるなどのメリットがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>【ファミリーファンド方式】</b>投資する投資信託は、同一運用会社の「マザーファンド」となります。「マザーファンド」は投資家が直接購入できない商品です。</li> <li><b>【ファンド・オブ・ファンズ方式】</b>投資する投資信託は、他の運用会社のファンドも対象となり、投資家が直接購入できるファンドも組入れられます。</li> </ul> </li> <li>※重要情報シートにおいては、「ファンド・オブ・ファンズ」である商品について『パッケージ化商品』としてご説明しています。</li> </ul>

## 2. リスクと運用実績

<ul style="list-style-type: none"> <li>上記のリスクについて、私が理解できるように説明してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交付目論見書において、各商品の投資リスクや基準価額の変動要因に関する詳細な説明をご確認いただけます。</li> <li>交付目論見書は、重要情報シート「7. その他参考情報」よりご確認ください。</li> <li>投資信託に組み入れられている株式、債券等の有価証券により、リスクは異なります。主なリスクとして以下のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>【株価変動リスク】</b></li> </ul> </li> <li>株式などの有価証券は、その会社の業績や市場・経済状況、業界の動向など、さまざまな要因で価格が変動するリスクのことで、それらを投資対象にしている投資信託も同様に価格が変動します。</li> </ul>
---	---

	<p><b>「金利変動リスク」</b></p> <p>・債券価格は満期日までの間、市場金利が低下すれば値上がりし、市場金利が上昇すれば値下がります。そのように市場金利の変動による債券価格の変動によって生じるリスクのことで、債券を投資対象としている投資信託も同様の影響を受けます。</p> <p><b>「リートの価格変動リスク」</b></p> <p>リート価格は、不動産市況に対する見通しや市場における需給など、さまざまな要因で変動します。リートが保有している不動産からの収益の減少や災害被害、不動産に係わる法制度の変更、市場の金利上昇などによって基準価額下落が生じるリスクのことで、</p> <p><b>「為替変動リスク」</b></p> <p>為替は国内外の政治・経済情勢などさまざまな環境に影響を受けて変動します。外貨建資産で運用を行うと為替相場の変動の影響により資産価値が変動するリスクのことで、</p> <p><b>「信用リスク」</b></p> <p>株式や債券の発行者の信用状況の変化により、その有価証券の価格が変動するリスクのことで、それらを投資対象としている投資信託も同様の影響を受けます。</p> <p><b>「流動性リスク」</b></p> <p>株式、債券およびリートなどの投資対象を売買する際に、市場規模や取引量など市場に十分な需給（流動性）がなく、市場実勢から期待される価格で購入（売却）できないリスクのことで、基準価額の下落要因となり、投資元本を下回るなどの影響を受ける可能性があります。</p> <p><b>「カントリーリスク」</b></p> <p>投資対象国や地域において、政治・経済情勢の変化や新たな取引規制ができた場合などによって、基準価額が変動するリスクのことで、基準価額が下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。</p> <p>※各商品のリスクの詳細については、最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。</p>
<p>・相対的にリスクが低い類似商品はあるのか。あればその商品について説明してほしい。</p>	<p>・当社ホームページ»ファンド情報より、同じ分類や投資対象資産の商品をご確認ください。ファンド情報には、運用実績に基づくリスク・リターン水準や、リスク水準の指標となる QFR も記載していますので、ご参考にしてください。</p> <p>※QFR（QUICK FUND RISK）は、QUICK 社が算出している投資信託の基準価格の変動の大きさを示す指標です。価格変動幅（リスク）が最も小さい QFR 1 から、最も大きい QFR 5 * まで 6 段階で示しています。</p> <p>・当該商品が「為替ヘッジなし」の場合、同種の運用で為替リスクを抑えた「為替ヘッジあり」がある場合があります。「為替ヘッジ」ありのコースでは、為替変動リスクを低減するために、為替ヘッジを行います。</p>

### 3.費用

<p>・私がこの商品に〇〇万円を投資したら、それぞれのコストが実際にいくらかかるのか説明してほしい。</p>	<p>・【<b>購入時手数料</b>】は、購入価額に購入口数、手数料率を乗じて得た額となります。※例えば、100 万円の申込金額でご購入いただく場合、指定金額の 100 万円の中から購入時手数料（税込）をいただきますので、100 万円全額が当該投資信託の購入金額となるものではありません。</p> <p>・【<b>信託報酬</b>】は、保有している期間、間接的にご負担いただく費用です。純資産総額に対する年率で表示され、信託財産の中から日々差し引かれます。※具体的な金額は明示できませんが、「保有金額に信託報酬（年率）を乗じる」「運用報告書に記載されている 1 万口あたりの費用に保有口数に乗じる」などにより概算金額を計算できます。</p>
<p>・費用がより安い類似商品はあるか。あればその商品について説明してほしい。</p>	<p>・当社ホームページ»ファンド情報より、同じ分類や投資対象資産の商品をご確認ください。インデックスファンドなど、相対的に各種費用・コストが安い商品もあります。</p> <p>※各商品の費用・コストは、交付目論見書でご確認ください。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インデックスファンドの類似商品として、指数に連動するETF（上場投資信託）がありETFのほうが、費用が安い場合があります。</li> <li>※ETFについては、日本取引所グループ（JPX）のホームページなどでご確認くださいだけです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記費用について、何に対する対価なのか説明してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【購入時手数料】は、お客さまへの情報提供やご提案、重要事項のご説明、販売にかかる事務手続きの対価で、いわばコンサルティング料（相談料）です。</li> <li>・【運用管理費用（信託報酬）】は、運用・管理するための経費であり、継続的な情報提供、運用報告書の作成・交付、分配金・償還金のお支払いなどの資金管理・手続などの対価です。</li> </ul>

#### 4.換金・解約の条件

<ul style="list-style-type: none"> <li>・私がこの商品を換金・解約するとき、具体的にどのような制限や不利益があるのかについて説明してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投資信託の換金時には、信託財産留保額がかかる場合があります。</li> <li>・換金申込受付時間は毎営業日 15 時までとなり、超えた場合は翌営業日扱となります。また、各商品の購入・換金申込不可日（海外市場の休休日や運用会社が定める日など）には、換金申込の受付を行いません。</li> <li>・その他取引所の停止、為替取引の停止などやむをえない事情により換金申込の受付を停止する場合があります。</li> <li>・換金受付後、換金代金の受渡日までは日数がかかります。※商品により日数は異なります。</li> </ul>
--	--

#### 5.当社の利益とお客様の利益が反する可能性

<ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたの会社が得る手数料が高い商品など、私の利益よりあなたの会社やあなたの利益を優先した商品を私に薦めていないか。私の利益よりあなたの会社やあなたの利益を優先する可能性がある場合、あなたの会社では、どのような対策をとっているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お客さま本位の業務運営宣言と取組方針」に基づき、お客さまの資産形成に資することを前提に、お客さまの利益を最優先に金融商品をご提案しています。</li> <li>・業績評価においても、特定の投資信託の販売を高く評価するような取組はありません。また、対応策としては「利益相反管理方針」に基づき、商品選定や手数料設定、サービス提供などのそれぞれの場面において、お客さまとの利益相反の可能性を正確に把握し、お客さまの利益を不当に害することが無いよう適切に管理しています。</li> </ul>
--	---

**上記は、「重要情報シート（個別商品編）投資信託」に記載された「以下のような質問があれば、お問い合わせください。」に対する回答例であり、実際の回答はお客さま毎、商品毎に異なる場合があります。**